

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

はなみずき

日付 平成 20年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験15年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

午前10時、食卓に座っている数名の利用者に「おはようございます」と挨拶すると、「どちらから来られましたかな?」と問いかけられる。岡山の市内からという、「私は に住んでいたの…」と早速会話が成り立つ。「昨日は息子が面会に来てくれたのよ…」と明るい顔で付言してくれた。昼食用のカレーライスのジャガイモの皮を剥いていた夫人も、「私は 市に長く住んでいたの…」と答える。数分後には同じ問いかけの繰り返しであったりするが、会話を楽しむ雰囲気を作る事が出来た。しばらくすると医療事務を専攻しているアルバイトの大学生に付き添われて、日課の朝の散歩から帰ってきた男性の利用者が満足げな顔で着席し、テーブル懇談の仲間入り。昔の映画談義に花が咲き、映画名や役者の名前、果ては主題歌・流行歌と広がってゆく。最長老の男性は朝がゆっくりで、まだ床でまどろみ中の様子。ここでは、夫々の利用者の状態や生活スタイルを尊重している。集団と個々の生活をそれぞれの人のライフスタイルに合わせて好きなように生活できるよう支援している。

大きな社会福祉法人の中の一つの組織であるこのホームは8年目を迎えるが、職員さんたちのトイレ誘導や風呂への案内なども、プライバシーを尊重して、それとなく本人たちの気分に沿った声かけなどは、流石がプロと思わせる見事な対応振りである。そして、昨年4月に着任した管理者の伸びやかな姿勢も反映してか、職員と利用者が一体となった家族的な雰囲気が一層強く感じられるようになっている。

男性2名・女性4名の6人の利用者という小単位のホームであることが、利用者にとってもまたケアする職員にとっての誠に良いバランスに見えてくる不思議さがここにはある。利用者個々の状況を把握する上でも、実際の恒常的な“見守り”や“サポート”の上でも、グループホームケアの最高のバランスは6~7人が理想的という説が肯ける現実がここにはあると感じさせられる。

この法人は、介護職員を養成する学園も経営しており、その学生は色々な施設で実習したり、アルバイトをする機会が多い。このホームでも同じで他の学校からも含めて学生の出入りが多い。きっと学生達もグループホームの良さを得ることができるだろうし、利用者にとっても若者がよく出入りすることが良い刺激や楽しさを生み出す事も出来る。このホームでの体験を通じて、人間としてのケアを学んで巣立って行く介護職に期待を寄せておきたい。

**特に改善の余地があると思われる点**

この法人では、H20年度の事業所計画として、1)生活の質の向上、2)信頼されるサービスの提供、3)開かれた施設作りという高度な命題が策定されているが、その実現に向けて次のような提案をした

常勤職員としての管理者1名に負荷がやや過重になりはしないかと感じた。管理者の慣れない1年目の経過を踏まえて、職員全体に役割り分担をしてチームケアのあり方を拡げて欲しい。

具体的には、利用者担当を決めて家族宛メッセージを書くことや、ホームだより担当者を決めるなどしてその定期化などを実現して欲しい。

## 2. 評価結果 (詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…法人全体としては“敬天愛人”をはじめとする「園五訓」が掲げられている。これらの指標にも基づいて、新たに17年度から「尊厳・いきがい・やすらぎ」を利用者にもたらす“人生モデル”の提供を研修の課題に掲げている。</p> <p>2、全体的に見て…そして、このホームでは、「安心・うるおい・こころ良さ」を理念として母体法人と連携しながら実践に努めている。20年度の事業計画にも既に確定し、生活の質の向上 信頼されるサービス提供 開かれた施設作り、を目標に設定している。</p> <p>昨年、特養施設から転任の管理者も、このグループホームでの一年を振り返って、利用者に向き合い寄り添ってのケアができる手ごたえをしみじみと語っている事に確かな足取りをつかんでいる事が伺われた。利用者の動きを見守りながら、ゆったりとさりげなくサポートする職員の動きで無理がない。6人という少人数ケアの規模がもたらすグループホームケアの優れた一つの典型例を示してもらいたいものである。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…改善項目はない。</p> <p>2、全体的に見て…起きている時間の殆どは、リビング兼食堂のテーブルを囲んで過ごす時間が多そうだ。しかし、起きる時間差や、午前中散歩をゆっくり楽しむ人などで、朝からいつもそこで一緒にいるというのではなく、お昼前頃にみんなの顔が揃う事が多そうだ。そうした各自のペースを尊重しながら、何となく落ち着き場所に座ってゆく中で夫々の居場所が決まっているようだ。昼食時に職員も含めてみんなが揃った時、小家族の生活感がふと感じられるのは、規模とケアの絶妙のバランスからもたらされるかもしれない。</p> <p>南面のゾーンを少し整理して、1~2つ小椅子を配置して個人になれる居場所作りを工夫して欲しいと感じた。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…「一人ひとりのペースの尊重」がこのホームの真骨頂と言ってよいかもしれない。特に改善項目はないが、利用者一人ひとりを尊重する気持ちや対応については、職員の間で常に高めていく努力をしようと考えている。また、食事や排泄に対するケアの質の向上にも努力目標を持っている。</p> <p>2、全体的に見て…それぞれの利用者の生活史や性格、身体状況などを的確に把握して、生活サポートしてゆく姿勢に無理がない。大きな社会福祉法人の一角にあって、職員の研修の統一性などからか、認知症ケアの7年以上の経験者が5人も配置されていることにも安定性を感じられる。また、敷地内部に急性期の病気に対応する医療機関があることも、家族・職員両者にとって安心できる要件が充たされている。利用者の落ち着いた生活ぶりに、その成果は反映していると感じられた。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…特に改善事項はない。</p> <p>2、全体的に見て…ホーム就任二年目を迎える管理者のもと、既に確定している平成二十年度の事業計画の具体化を既に一歩踏み出そうとしている。これまでの安定したケアの実践に加えて、職員全体が個別担当やホーム便り発行などの役目を分担して、チームケアの更なる深化を期待する次第である。</p>		